

一 次の文章を読み、後の問いに答えよ。

近年“グローバル化”という言葉をよく耳にする。世界がア
る傾向を語る際に使われるのだろうか、内実はアメリカ化というに
近い。世界のどの国に行っても、ある程度の規模の都市であれば、ア
メリカで開発されたOSとアプリを①トウ載したスマホを使って、ア
メリカ発②ショウのハンバーガーチェーンやコーヒーショップの一つや二つ
は探し出せるに違いない。そうした誰の目にも明らかなアメリカ文
化の③シントウが、世界のグローバル化を実感させるのだろう。

美術に目を向ければ、世界基準のアートと伝統的な造形が各地
でせめぎあっている状況と言えるだろうか。イ
力は強く、世界のアートシーンはかなりのスピードで均質化してい
るようにも見える。

美術のグローバル化の背景にはファインアートの広がりがある。絵
画と彫刻を基軸とするファインアートという概念は西欧が生み出し
たものだが、明治の日本がその洗礼をまともに受けたことはあらた
めて述べるまでもなく、アジアやアフリカの多くの国も、早い遅いの
差はあったものの似たような状況であった。西欧発のファインアート
は、近代を迎えると④マタたく間に世界基準になったのである。

あらためてファインアートについて考えてみると、絵画にせよ彫刻
にせよ建築にせよ、修練を重ねた作り手による、高い完成度を誇る
純粋で立派な造形を指すと考えてさほどの外れではないだろう。
妙技で見る者をひざまずかせる威圧的な造形と言っても良い。それ
らの多くはローマ時代の大理石彫刻やルーベンスの巨大な絵画を例
に引くまでもなく、財力を持った権力者のためのものであった。数億
円という数字が⑤ヒンパンに飛び交う現代アートにおいても事情はさ
ほど変わらない。ファインアートの定義には様々なものがあるだろう
が、本書では従来の定義にとられずに、A見る者を威圧する立派
な造形についてこの言葉を使うことにしよう。

西欧の絵画はかつてリアリズム⑥一辺倒であったが、19世紀の半ば
ころから急速に表現の幅を獲得し始める。そのきっかけが日本絵画
との出会いであったことはもっと重視されて良いが、その後の発展には
目をみはるものがあり、様々なスタイルが次々に現れて、多様性豊
かなものに成長していった。彩り豊かなモダンアートは世界をB席巻
し、脱皮を繰り返しながら、現代の多様なアートシーンが出来上
がったのである。

リアリズムを根幹に据えたクラシックな絵画や彫刻と、印象派以降のモダンアートではかなり顔つきが異なり、モダンアート自体そのような多様性に富んだジャンルなのだが、それらは一貫してフラインアートの理念を保ち続けているように思われる。現代美術になじめない人が多いのは、現代アートもフラインアートに他ならず、観衆を教導しようとする上からの目線を感じる作品や、観衆に挑戦状をたたきつけるような威圧的な作品が多いからではないだろうか。

日本の美術界は学校教育から最も権威ある団体展とされる日展に至るまで、いまだにフラインアートの呪縛下にあるようだ。

ウ その歴史はさして長くはない。フラインアートという概念が流入したのは明治時代のこと、近年盛んに議論されているように、美術という言葉自体、英語の fine art、あるいはドイツ語の schöne Kunst の翻訳語として登場した新しいものである。

日本にも足利義満や豊臣秀吉のような権力を人々に見せつけようとする支配者も時折現れたが、西欧の絶対王政君主や明や清の皇帝に比べれば、日本の権力者のスケールはさほどでもなかったように見える。江戸時代に日本の美術は成熟期を迎えたが、その⑦相貌は、同時期の西欧のフラインアートとはかなり異なっていた。

江戸時代においても狩野派の襖絵かのうは ふすまえのようなフラインアートと呼ぶ

べき威圧的な造形はもちろん作られているが、それらはむしろ少数派であるように見える。江戸の町人は高度でありながらも⑧廉価にきえな錦絵を大量に消費し、京都の小金持ちまるやまわうぎよは岡山忠孝工房が制作するかわいい犬の小幅を購入し、東海道を行く旅人は大津の宿で⑨土産お土産に大津絵を買い求め、村人たちは我が里の⑩鎮守を盛り立てようと、隣村の神社に劣らぬ装飾彫刻の制作に資金を出しあい、見栄えのする大絵馬を奉納したのである。

西欧の貴族的なフラインアートに比べれば、江戸の造形ははるかに庶民的である。江戸時代の美術史は、見る者の顔をほころばせる造形を軸に展開した。その果実と言うべき浮世絵版画は西欧の絵画と造形原理が大きく異なっていたが、それが海を渡って印象派と呼ばれることになる画家たちにインスピレーションを与え、モダンアートへと導いたのである。

（矢島新『日本美術の核心——周辺文化が生んだオリジナリティ』筑摩書房、二〇二二年）に基づく）

問一 傍線部①②③④⑤について、カタカナを漢字にあらためよ。

問二 傍線部⑥⑦⑧⑨⑩について、その読みを平仮名で書け。

問三 空欄

ア

 に入るもっとも適当な三文字の表現を本文中から抜き出せ。

問四 空欄

イ

 と空欄

ウ

 には同じ表現が入る。空欄

イ

、空欄

ウ

 に当てはまるもっとも適当な表現を次の選択肢①～④の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ① なるほど ② はたまた ③ ただし ④ しかも

問五 二重傍線部A「見る者を威圧する立派な造形」について、次の(一)(二)の問いに答えよ。

(一)「見る者を威圧する」と反対の意味で用いられている十二字の表現を本文中から抜き出せ。

(二)「立派」と反対の意味で用いられている三字以上・五字以内の表現を本文中から抜き出せ。

問六 二重傍線部B「席卷」について、次の(一)(二)の問いに答えよ。

(一)「席卷」の読みを平仮名で書け。

(二)「席卷」の意味としてもっとも適当なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ① 勢力範囲を急速に拡大していくこと
② 領土や領域をじわじわと拡張していくこと
③ にわかに先頭に躍り出て、頂点を極めること
④ 徐々に周囲を取り込み、やがては旗頭となること

問七 次の①～④の各文について、本文の内容と合致するものには○を、合致しないものには×を記せ。

- ① ファインアートの原点は、主流ではなかったものの足利義満や豊臣秀吉といった日本の権力者にある。
- ② 江戸時代の村人たちによる隣村の神社にも負けない装飾彫刻への資金拠出や、見栄えのする大絵馬の奉納は、他者を圧倒するファインアートの一例である。
- ③ 現代アートはファインアートの一部であり、人々に畏怖を感じさせたり、観衆を教導したりするような作品が多数を占めることから、これに疎外感を覚える人が少ないと思われる。
- ④ 印象派の画家たちの絵画が、リアリズム偏重のそれまでの絵画とは異なったものになったことには、江戸時代の浮世絵が関係している。

二 次の文章を読み、後の問いに答えよ。

道徳的観点

スポーツカーについて考えてみよう。と言っても、私はスポーツカーに詳しくないので、最近古い自動車に夢中の小学生の長男に「何かスポーツカーを教えてよ」と訊いてみる。長男は「アルピーヌA110」と答える。私はインターネットで検索し、中古車屋さんのウェブサイトで一九六七年式のアルピーヌA110が売られているのを見つける。フランス製の名車、ということらしい。私の第一の感想は、「これは高そうだな」というものである。価格は「応相談」と書かれている。どうも一千万円をきることはなさそうだ。

長男がのぞき込んできて、「すごいでしょ。この丸みを帯びた形が

エレガントで美しいんだよ」とうれしそうに語りだす。そして、「買いなよ。俺も乗りたい」と言う。

ア、私は買わない。高価すぎてちょっと手が出ない。それにたとえお金があつたとしても、二人乗りなので家族で出かけることもできない。

「そのうえ」と私は考える。「このような燃費の悪い車に乗ることは環境に悪い。環境破壊に積極的に加担することは、間違っているのではないだろうか。それは将来の世代に害を加える不正な行為ではないだろうか」。

イ、このように我々は様々な観点から物事を考える。一台

のスポーツカーについて、我々はそれが高価だとか、^①維持費がかかりそうだとかといった金銭的観点から考え、それが美しくエレガントだと美的観点から考え、それを購入するのは不合理だと^A分別の観点から考え、そして、環境破壊をもたらすのでその車を乗り回すのは不正かもしれないと道徳的観点から考える。

最後に言及した道徳的観点とはどのような観点だろうか。これを厳密に定義するのは難しい。道徳的観点と非道徳的観点を厳密に区別するような仕方では「道徳的」という語の定義を述べるのは困難であるし、そもそもそのような定義が存在するかどうかとも疑わしい。ウ、厳密な定義を述べるのができなくとも「道徳的観点」という用語を使うことはできる。ここでは私がその用語で何を考えているのかをいくつかの例を出しつつ^②大雑把に説明しておくことにしたい。

一つには道徳的観点とは、「善悪」「正義」「平等」、あるいは「残酷さ」や「勇敢さ」といった概念を用いる観点である。例えば、私が小学校の先生だとしよう。私が担任をしているクラスでいじめがあり、私はいじめていた子と呼び、話をする。私は「いじめをしているとみんなに嫌われて結局損をするよ」とその子を^③サトすかもしれない。このとき、私は道徳的観点ではなく、分別の観点から考え、語っている。

それはいじめが自分にとって損か得かという意味での合理性について考える観点である。しかし、もし私が「いじめはいじめられている子を深く傷つけるから、悪いことだよ!」と言うならば、私はいじめを「道徳的な悪」として特徴づけており、道徳的観点からその子を叱っている。他にも、「本当の意味で男女が平等な社会とはどのような社会だろうか」「環境破壊は将来の世代に害を加えることであり正義に反する」と考えるとき、エ、強盗殺人犯を「残酷だ」と非難し、内部告発によりハラスメントを告発した人を「勇敢だ」と称賛するとき、我々は道徳的観点到立っている。

このように我々は「善悪」「平等」「正義」「残酷さ」「勇敢さ」などの概念を用いて道徳的観点から思考する。しかし、道徳的観点はこれらの典型的に道徳的、倫理的意味合いを帯びた概念のみによって構成されているわけではない。我々はより日常的な概念を使用しつつ、道徳的観点到立つこともある。

例えば、^④マン画などでよくある父と子の葛藤の場面を考えてみよう。父親と息子は長年対立している。息子は「あんなやつ父親じゃない」と言い、決して父親を「お父さん」と呼ばない。しかし、様々な出来事を経て二人はお互いを理解するようになる。そして、息子は最後に——たぶん父親の死の場面で——ついに「お父さん」と

言う。この「お父さん」という言葉には、一種の道徳的な救^{ゆる}しが表現されている。^Bもちろん、「お父さん」という語は常に道徳的観点から用いられるわけではない。私の息子が「お父さん、今日の晩ごはん何？」と私に訊くとき、特に道徳的観点から何かが言われているわけではない。しかし、特別な赦しが問題となるような場面では、その「お父さん」という言葉は道徳的観点から発せられている。

以上の例示により、私が「道徳的観点」ということで何を考えているかは、おおよそ理解してもらえただろうと思う。それは金銭的観点、美的観点、分別の観点などから区別され、人として、社会として、根本的に重要なことに関わる観点である。

道徳的思考と価値観

この本において私はこの道徳的観点から物事を考えるとはどういうことなのかを探求する。すなわち、私は「道徳的思考」とは何かを説明することを目指す。私のアプローチはパッチワーク的なものであり、道徳的思考の本質を取り出し理論的に解説することを目指すものではない。そうではなく、それは道徳的思考が現れている現場をよく見ることで、その様々な側面を提示していくとするものである。

細かい議論は次章以降で行うとして、ここでは導入として少しゆるやかに道徳的思考に対するイメージについて語っておこう。道徳的思考に対してしばしば持たれているイメージは、それが価値観の押しつけに帰着するものである。そのイメージによると、人はそれぞれ自分の価値観を持っているが、それらの価値観の間で^⑥優劣をつけることはできず、したがって、そのような価値観が道徳的観点から——例えば「正義」として——主張されると、それは価値観の押しつけとなる。例えば、「脳死臓器移植は許されるのか」とか「死刑制度を存続すべきか、廃止すべきか」とかといった意見の分かれる道徳的、倫理的問題について議論をするとき、それぞれの立場の論者は、結局のところ自分の価値観を押しつけようとしているに過ぎない。このようなものとして道徳的思考はイメージされることがある。私自身はこのようなイメージを受け入れない。確かに道徳的思考は価値観に関わるが、しかし、様々な価値観の間に優劣がないとは言えない。私の考えでは、価値観の中にはより正しい、もしくは、よりよい価値観があり、何が正しいことなのか、何がよりよいことなのかを考察し、探求することは意味をなす。

この点について深く論じることはこの本の主題ではないので、ここでは簡単な指摘を一つしておくことで満足しよう。私が指摘したいの

は、多くの場合において、道徳的思考が価値観の押しつけに過ぎないとは我々は考えない、ということである。確かに脳死臓器移植の⑥是非や死刑存廃論といったちょっと自分から縁遠い話題については、価値観は人それぞれだと言ってすませたところがある。実際、私の経験でも、授業でこれらの話題を扱うと、多くの学生がそれは価値観の問題で決着をつけられない、というような意見を述べる。しかし、例えば自分の知人にひどい嘘をつかれたとか、自分の親しい人がハラスメントを受けたとかというようなときに、「まあ、価値観は人それぞれでそういうのを悪いと言う人もいれば、それほど問題にしない人もいるよね」とさばけた態度をとるだろうか。そのような場合、我々は「それは間違っている！」と留保をつけることなく判断し、⑦憤るのではないだろうか。もちろん、我々がどういう態度をとるかということと、実際にそのようなケースで「正しい／間違い」の区別があるかどうかということとは別のことである。しかし、さしあたり、道徳的思考を価値観の押しつけとしてイメージする必然性はなく、この本において私自身はそのようなイメージを受け入れないということを確認することで満足し、この点についてはこれ以上踏み込まないことにしよう。

道徳と規則

別の関連するイメージもある。以前にテレビのニュースを見ていたときのことである。セクハラに関するニュースをやっていて、町の人の意見を聞くという映像が流れていた。その中で、会社員風の男性が、「昔とルールが変わってしまっただけで難しくなりましたね。何が正しいルールか教えてほしいです」というようなことを述べていた。

ここにあるのは、道徳的思考とは社会が⑧恣意的に決めた規則を適用することだ、というイメージである。そのイメージによると、道徳とは規則の問題である。そして、規則自体には何か絶対的根拠のようなものはないが、社会は何らかの規則を決まり事として採用し、流通させている。したがって、道徳的に考えるとは、結局のところ、そのような規則を適用することに存する。このように考えられているのである。

私はこのイメージも採らない。もう何年も前のことなので具体的に何のニュースだったのか思い出すことはできないが——残念ながら、セクハラはしばしばニュースになる——そのニュースを見ながら、私はこれは非常に非道徳的なイメージだと思った記憶がある。

ニュースでコメントをしていた男性は、道徳を恣意的に採用された規則の問題としてイメージしている。そのため、セクハラに関する社

会の変化も、問題認識の深まりではなく、規則の変化として捉えられることになる。そのうえで、セクハラに関しては規則が明確になっていないと戸惑いを表明しているわけである。

このようなイメージにおいて抜け落ちているのは、他者の苦しみに対する感受性である。セクハラという概念が流通する以前から、女性であるという理由で多くの女性が性的なハラスメントに苦しめられていたということ。そして、現在でもそのようなハラスメントによる苦しみが存在しているということ。私のイメージではそのような苦しみを理解しようと努めることは道徳的であることの重要な一部であるが、先の男性の発言からはその点がまったく抜け落ちてしまっている。もちろん、通りすがりの人の発言を^⑨ヒロ^⑩った映像であり、その男性の熟^⑩リ^⑪ヨ^⑫のうえでの見解を報じているわけではないだろう。しかし、道徳を規則の問題としてイメージし、「とにかく正しい規則を教えてくれたらそれに従うのに」と考えることは、他者の苦しみや

観点を理解しようと努めることという道徳的思考の重要な部分を取りこぼしてしまっているように思われるのである。

「ごちゃごちゃした活動としての道徳的思考」

私が提示したいイメージは、道徳的思考を価値観の押しつけや規則の適用といったシンプルな活動ではなく、多様な要素を含む、もつとごちゃごちゃした活動として捉えるものである。すなわち、私のイメージでは、道徳的思考とは他者の苦しみや観点を理解しようと努め、不正に憤るとともに、想像力を用いた考察により自他の物の見方を問い直していく活動である。それは理性、感情、想像力といった自己の能力を総動員する活動なのだ。

（大谷弘『道徳的に考えるとはどういうことか』（筑摩書房、二〇二三年）に基づく）

問一 傍線部①③④⑨⑩について、カタカナを漢字にあらためよ。

問二 傍線部②⑤⑥⑦⑧について、その読みを平仮名で書け。

問三 空欄

ア

エ

 に入る表現としてもっとも適当なものを次の選択肢①～④の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。なお、同じ表現は二度は使用しない。

- ① あるいは ② しかし ③ もちろん ④ さて

問四 二重傍線部 A 「分別」について、次の (一) (二) の問いに答えよ。

(一) 「分別」の読みを平仮名で答えよ。

(二) 「分別」の意味としてもっとも適当なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ① 物事について、道理や善悪などの面から考えること。
② 種類の面から、区別をしたり区分したりすること。
③ 多くの物の中から、優れたものを選び分けること。
④ 無条件に物事を続けるのではなく、どこかで区切りをつけること。

問五 二重傍線部 B 「もちろん、「お父さん」という語は常に道徳的観点から用いられるわけではない」について、「道徳的観点から用いられる」場合のほかに、「お父さん」にはどのような用いられ方があると筆者は考えているのか。「としての使い方」という表現に繋がるように八字の表現を本文中より抜き出せ。

問六 二重傍線部 C 「私はこれは非常に非道徳的なイメージだと思った」について、筆者はなぜ非道徳的だったのか。その理由を次の二つの条件に従って説明せよ。

【条件1】 六十字以上、八十字以内でまとめる (句点・読点はそれぞれ一文字として数える)。

【条件2】 「規則」という表現を用いる。

三

次の(一)(二)の問いに答えよ。

(一)慣用表現「味噌をつける」について、その意味としてもっとも適当なものを次の選択肢①～⑤の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ① 健康的に過ごす ② 手間をかける ③ 面目を失う ④ 自慢する ⑤ 相手に媚びる

(二)次に示すのは、相手の気持ちや態度次第でこちらの応じ方も変化する、という意味の慣用表現である。この表現の□に当てはまるもっとも適当な漢字を次の選択肢①～⑤の中から一つ選び、記号で答えよ。

□ 心あれば水心

- ① 魚 ② 野 ③ 恋 ④ 真 ⑤ 二

〈以下余白〉